



平成25年産魚沼コシヒカリ1等米比率95%以上を目指し、更なる技術の徹底を図りましょう!

《対策・技術》

《期待できる効果》

土づくりの推進

- 作土層の15cmの確保
- 有機センター推肥の活用
- 地域に適した土づくり肥料の活用
- 秋すき込みの徹底

- 根の分布幅確保
- 保水性や窒素供給力の増加
- 不足成分の補給
- 資源の有効活用

健苗育成と適期移植

- 適期・適正苗での田植え実施
 - ・稚苗2.2葉苗、中苗3.5葉苗
- 最適期田植えの実施
 - ・最適期 5/15~5/20
- 弁当肥の活用
- 適正栽植密度で田植え
 - ・平場60株、山場70株



- 移植後の活着確保
- 登熟期の高温回避
- 移植後の活着を早める
- 早期の有効茎数確保で中干し徹底

適期中干しと水管理の徹底

- 出穂1ヶ月前（7月7日頃）までに中干し終了
 - ・中干し終了→間断かん水・飽水管理→常時湛水
- 幼穂形成期以降の常時湛水
 - ・出穂3週間前～出穂後25日以降の常時湛水
- 深水で水温上昇防止
 - ・水温が上昇した場合は水の更新で水温低下
- 後半まで湛水管理。落水は出穂後25日以降
 - ・高温時には出穂後25日以降も水をかける

- 根の健全化、倒伏軽減
- カドミウム吸収抑制
- 根腐れ防止
- 胴割米発生防止

適正な基肥・穂肥の施肥

- 適正生育量を確保するための基肥投入
 - ・遅い田植では減肥
- 異常気象に対応した適正穂肥の施用
- 稲体活力を維持するケイ酸質資材の追肥

- 良食味・高品質米生産
- 倒伏防止

刈り遅れ防止と丁寧な乾燥・調製

- 標高差や移植時期の移動で収穫期の分散
 - ・早生品種・直播栽培の導入による収穫適期分散
- 出穂期からの積算温度による作業計画作成
 - ・高温時は収穫を早める（1,000℃→950℃）
- ほ場の黄化割合を確認して収穫判断
- 乾燥・調製は過乾燥に注意し適正な流量で調製

- 刈り遅れ防止
- 作業効率向上
- 適期刈取り
- 高品質米生産



世界最高水準のおいしひ「魚沼コシヒカリ」推進集会開催

- ◎ 日時：平成25年3月16日(土) ◎ 会場：魚沼市地域振興センター コンベンションホール
午後1時30分～4時 (道の駅 ゆのたに「深雪の里」隣り)